

学校だより

のりまつ

全国学力・学習状況調査特集号

平成27年11月27日

- 心豊かで、協調性のある子ども
(徳 - やさしく)
- 自ら学び、自ら考える子ども
(知 - かしく)
- 心身ともに健康で、強い意志と実践力のある子ども
(体 - たくましく)

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。調査結果は、本校児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	下回っている	・全体的に全国平均正答率を下回っていた。なかでも言語についての知識・理解・技能に関する設問の正答率が低かった。 ・言葉の知識を問う問題に課題があり、普段からの書いたり読んだりすることの習慣化の定着が必要である。
国語B	下回っている	・全体的には全国平均正答率をかなり下回っていた。特に読んだり書いたりする力を試す設問の正答率が低かった。 ・目的に応じて文章の内容を的確に捉えたり、自分の考えを的確な表現で書いたりする問題に課題があり、読み書きの習慣化の定着が必要である。
算数A	下回っている	・全国平均正答率を下回っていた。算数の計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要があった。 ・図形の性質を理解しその特徴を捉える問題の誤答が多かった。
算数B	下回っている	・全国平均正答率を下回っていた。応用問題に対しても、苦手意識があり、粘り強く取り組むことが必要である。 ・図形の性質知識、理解があまり高くなく、応用力を試す問題の正答率が低かった。

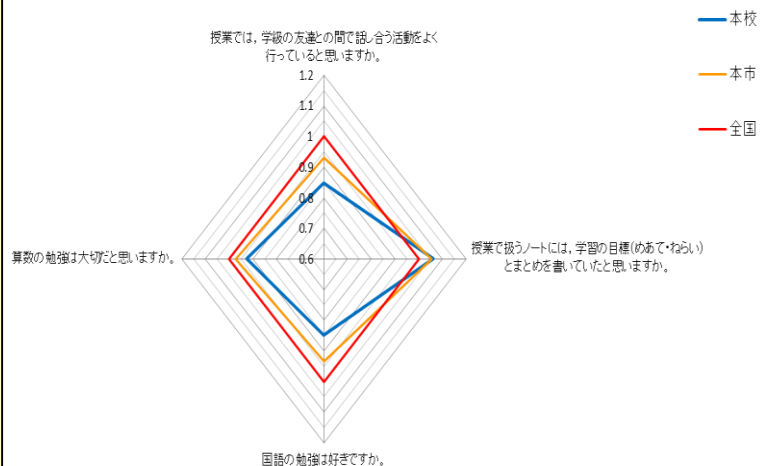
② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・授業における学習のスタンダード化を推進しており、めあてやまとめ、振り返りを毎日の授業に位置づけて行っている。また、ノートのまとめにもその成果が表れている。今後は、家庭学習などでも活用できるノートのまとめ方の工夫が必要である。

・普段の授業においてグループやペアでの話し合い活動を取り入れた学習を行い表現力の育成を図っている。しかし、その成果が十分表れていないという結果も伺うことができるので、日頃の授業においてグループ学習の場を増やす。

・国語や算数の学習する目的があまり理解されておらず、それが学習への興味や意欲につながっていない。今後は、日常の授業の改善を通して児童が楽しいと思える授業の工夫を実践する必要がある。

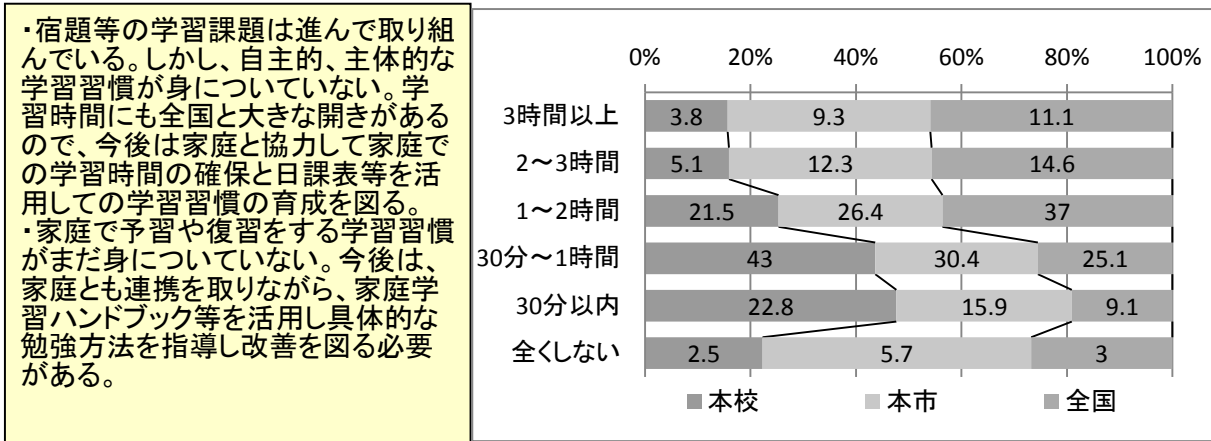
本校と本市の対全国比(全国を1とする)



2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・友達の話や意見を最後まで聞く態度が育ちつつある。今後も生活や学習の場面において最後まで話を聞く力の育成を進める。自分の考えや意見を発表するのが苦手な児童もいるので、表現する力を育てる意味でも普段の授業や学級会等の特別活動の時間を有効に活用し人前でも積極的に自分の考えを発信できるようにする。
- ・自尊心が全国平均と開きがある。今後は学習や生活の場面で自分のよさを周囲の人から認められるような声掛けが広がるような学級づくりをしていくとともに、家庭とも連携して自尊心を育てる取り組みをしていく必要がある。
- ・家庭でのゲームの時間が多く、それが学習時間や睡眠時間を減らす原因になっている児童が見受けられる。規則正しい生活習慣を育成するために家庭とも協力して取り組む必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 児童の実態をもとにした学力向上研修等の共通理解の場の設定
- ・学力テストやCRT検査の分析結果をもとに学力の定着・向上のための課題や具体的方策の検討を行う。
- ・朝の学習の時間等を活用して、基礎的な内容のワークテストを繰り返し行うなどして基礎学力の向上を図る。
- ・学習過程のスタンダード化や学習規律の定着を図る。
- ・職員で学力テストやCRTの問題を解き、その出題傾向を知り指導に生かす。
- 特設時間の活用
- ・朝の学習の時間の内容を通して、取り組みとその内容の工夫を行う。
- ・少人数担当教諭や担任外の教諭を生かして、上学年を中心に少人数学習を計画的に実施する。
- ・学級担任や担任外教諭による空き時間を活用しての補充指導を行う。
- 過去問やアシストシート等の効果的活用
- ・アシストシート、過去問を朝の学習や冬・春休みの課題として活用する。
- 書くこと、読むことの習慣化
- ・ノート指導の徹底を図る。
- ・言語による表現力の向上のための「ひまわり」の音読・視写の学習に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習チャレンジハンドブックや家庭学習の手引き等を活用し、家庭とも連携を図りながら家庭学習の習慣形成と定着を図る。また、学期に一回程度 of 家庭学習定着強化期間を設け、強化期間中の学習実態把握、及び課題の改善に向けて保護者と連携を図る。また、学年の発達段階に応じた学習時間を確保するために普段の学習課題(宿題等)の推進・定着を図る取組を行う。
- ・普段の生活の中で長時間ゲームやテレビ等に時間を割いている児童がおり、規則正しい生活習慣形成や家庭学習習慣の定着の妨げにもなっている。毎日の日課について振り返られるための生活点検カードの取り組みや「生活がんばり習慣」等の活用による生活習慣形成を図っていく。
- ・家庭生活の実態を保護者と学校が共有し、課題を明確にするとともに改善のための具体的な手立てや方法を学校や学級担任から発信する。